

■黒島伝治 小説家。優れた農民文学・反戦文学を書き、不遇のなか早世。戦前発禁の「武装せる市街」は戦後GHQも発禁。

くろしまでんじ

子規句歌革新1898＝ 香川県小豆島の貧農の家に生れ、

日露戦争終・1905＝ 7歳：

韓国反日暴動1907＝ 9歳：

早くから醤油工場で働いた。

明治天皇没・1912＝14歳：

民本主義・・1916＝18歳：

本格政党内閣1918＝20歳：\_文学を志して上京，

ベルリン条約・1919＝21歳：\_早大予科に入るも，徴兵検査に合格，衛生兵としてシベリアへ派兵される。

原敬首相暗殺1921＝23歳：

\_以前からの肺患が悪化して内地へ送還され，郷里で養生しながら文学の勉強を続け，

治安維持法・1925＝27歳：\_書きためた作品を持って，上京。処女作「電報」をはじめ，

円本時代始・1926＝28歳：\_\*「二銭銅貨」「豚群」などの好短篇を発表，優れた農民文学の作家として認められる。

\_次いでシベリア出兵の体験に基づいた「棲」「渦巻ける鳥の群」などの優れた反戦文学を発表。

{文芸戦線}同人から，後に<プロレタリア作家同盟>に参加，

海軍軍縮条約1930＝32歳：\_\*済南事件に取材した長篇小説「武装せる市街」を発表したが発禁となり，

満州事変・・1931＝33歳：

帝人疑獄事件1934＝36歳：

日中戦争始・1937＝39歳：

日米開戦・・1941＝43歳：

創価学会検挙1943＝45歳：\_郷里で不遇の中に病死した。

中国における日本の植民地的支配の実態をマッチ製造工場を舞台にして描いた「武装せる市街」は，敗戦後も占領軍によって出版が不許可になる。同郷の詩人壺井繁治らの努力によって紹介され，研究が進むにつれ，その価値が改めて認識されている。